

## はじめに

人はどのようなときに人や自分の運命を知りたいと思うのだろうか。

自分を知りたくなるのは、行く先に迷ったとき、

人を知りたくなるのは、愛しているときか、懲らしめたいとき、

……ではないだろうか。

四柱推命は、そういったニーズに応じてくれる学問だ。

四柱推命の誕生は、中国の唐代とも宋代ともいわれる。少なくとも700年以上前から清代にかけて発展を続け、その後は中国の外に一般人に広まってきた。

古くは王朝の行く末を予見する際や、官僚の登用を検討する際に、あるいは科挙に合格できそうな人物を見極める際に用いられたツールだったという。つまり、きわめて戦略的に用いられてきたのだ。綺麗事なく、その人物の「どこがいいか」だけでなく、「どこが駄目か」ははっきりと出る。

よく、占い師自身が、「占い」という言葉自体の胡散臭いイメージを払拭しようと試み、「占い」という言葉を真実味のあるものとして別の言葉で表現するために、「統計学」だ、はたまた「自然科学」だ、と言い換えているところを見聞きする。どう言い表したのか、迷うところだが、私の考えでは、四柱推命は、「自然の流れを解明し、その流れを乗りこ

なす学問」であると思う。

四柱推命は、「使える」占術だ。どうして当たるのか、科学的に証明されているわけではないが、「使える」のだから仕方がない。学んで損はないツールである。

本編に入る前に、四柱推命の基礎知識をざっとご確認いただきたい。

### 【四柱推命の基礎知識】

四柱推命では、生年月日および生まれた時間を用いて、その人の持って生まれた運命の地図のようなものである「命式」という表を出す。命式を出すには、アナログな手段では専用の干支暦を使って出す方法もあるのだが、本書にその表をつけると結構な厚みになってしまうため、やめておくことにしている。現代では、命式はネットで出すことができる（おすすめのサイトは後述する）。

命式は以下のように表記される場合がほとんどだ。

(例)

時柱	日柱	月柱	年柱
丁	丙	乙	甲
卯	寅	丑	子

右から年柱、月柱、日柱、時柱である。

「年柱」は年によって決まるものだ。同じ年に生まれた人の年柱は全員同じである。

「月柱」は月によって決まるもので、同じ月に生まれた人の月柱は全員同じ。

「日柱」も同様……とはいえ、年・月・日の区切りは現代と異なるのだが。それはおいおい解説する。

なお、「時柱」は2時間ごとに変わるものである。

本書では、命式の例などを出すとき、「年柱」「月柱」などの表記を省略し、以下のように表記させていただく。

丁丙乙甲  
卯寅丑子

※ちなみに、本書に例として出す命式は、実在の命式とは限らないことをご承知おきいただきたい。

年柱～時柱までの八字を用いて運命を読むことから、中国では四柱推命のことを「八字」と呼ぶことが一般的なようだ。

上の段にある四字を「天干」、下にある四字を「地支」と言う。「天干」や「地支」の中でもそれぞれを区別したいときは、年柱の天干は「年干」、年柱の地支は「年支」……というように呼び分ける。

時柱	日柱	月柱	年柱
丁（時干）	丙（日干=日主）	乙（月干）	甲（年干）
卯（時支）	寅（日支）	丑（月支）	子（年支）

「命式」のうち、最も本人の性質を色濃く反映するのは、「日干」であると言われる。上の例では「丙」である。「日干」は「日主」と呼ばれることもある。

次に、命式を出すときの注意点をご説明する。

### 1. 生まれた場所による時差

日本では兵庫県明石市の時刻を標準時間としており、日本国内に時差はないことになっているが、四柱推命で命式を出すにあたっては、時差修正を行う必要がある。命式算出サイトによっては、出生地を入力すれば自動で時差修正が行われるものもあるが、そうでない場合は、修正が必要だ。

（下の表で、例えば+8と表示されていたら、出生時間に8分足す。

(単位：分)

北海道（根室）	+42
北海道（札幌）	+25
青森	+23
岩手	+25
宮城	+24
秋田	+21
山形	+21
福島	+22
茨城	+22
栃木	+20
群馬	+17
さいたま	+19
千葉	+21
東京	+19
神奈川	+16

新潟	+16
富山	+9
石川	+6
福井	+5
山梨	+14
長野	+13
岐阜	+7
静岡	+14
愛知	+8
三重	+6
滋賀	+4
京都	+3
大阪	+3
奈良	+3
和歌山	+1
兵庫	+1

鳥取	-3
島根	-8
岡山	-4
広島	-10
山口	-14
徳島	-2
香川	-4
愛媛	-9
高知	-6
福岡	-19
佐賀	-19
長崎	-20
熊本	-18
大分	-13
宮崎	-14
鹿児島	-18
沖縄（那覇）	-29
沖縄（石垣）	-43

## 2. 日の変わり目

現代の感覚では、日付の変わり目は0時だが、命式を出すときは23時が変わり目である。つまり、23時以降に生まれた方は、四柱推命のうえでは翌日生まれということになる。

これが若干ややこしくて、命式を自動で算出してくれるサイトにあふれているのはありがたいが、日付の変わり目を0時にしているサイトも多々あるのだ。しかし、それでは正確な命式が出ない。どういうことか例で説明しよう。

(例) 2000年1月1日23:30生まれの男性の場合

1. 日付の変わり目を23時とした場合に出る命式

甲己丙己

子未子卯

2. 日付の変わり目を0時とした場合に出る命式

甲戌丙己

子午子卯

ご覧のとおり日柱が違う。これでは運命を読んだ結果も大違いになる。

生年月日をそのまま入力しても、上記1. の方式で命式を出してくれるアプリとサイトをご紹介します。日本語表記のものは少ないので、中国語表記のものになってしまうが。

アプリ: App Store『論八字－專業四柱排盤系統』

apple.com 2023年4月23日



→「論八字」と呼ばれるアプリ。もしあなたが四柱推命既習上級者であれば耳にしたことがあるかもしれない。大運（第八章で解説）も出るので便利である。

サイト: <https://m.yiqibazi.com/test/base.aspx> 2023年4月23日

→本書では、左から「時柱、日柱、月柱、年柱」という表記

を採用しているが、こちらのサイトでは左から「年柱、月柱、日柱、時柱」という表記である。その点にご注意いただきたい。※入力時は性別を選択し、「公历」を選択。

※正しい命式が出ないサイトでも、慣れてきたらご自分で調整するという方法もある。日付の変わり目を0時とする2.の方式のサイトでも、上に挙げた例の方であれば、「2000年1月2日0:30生まれ」として入力すれば1.の命式が出る。

それでは、前置きが長くなってしまったが、まずはぜひご自分の命式を出し、これから始まる本編で、ご自分の日主の性質を確認していただきたい。